

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 24 日現在

機関番号：27301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370644

研究課題名(和文) 英語発信技能評価システムの構築とその応用研究

研究課題名(英文) Making of an evaluating system for English learners' productive skills and its application

研究代表者

上村 俊彦 (Uemura, Toshihiko)

長崎県立大学・国際情報学部・教授

研究者番号：50176640

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：助成期間中、英語学習者の発信技能を評価する指標に関する研究をおこなった。英米大規模コーパス、多読用英語リーダーの英文テキストデータ等から抽出した語彙リストと編集委員として参画した大学英語教育学会(JACET)の新JACET8000とを比較検討して、頻度上位3000語を日本人英語学習者の発信語彙として確定した。研究協力者の英文ライティング課題等を参考にして、ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)A2～C1の当該レベルの英語力を持った学習者であればライティングでおおむねクリアできる文法事項や文構造と思われるものをリストアップすることで評価指標案の策定をおこなった。

研究成果の概要(英文)：This project aimed at making a system which evaluates English learners' productive knowledge. Based on large spoken corpora, English graded reader texts and other related English text data, several frequency-based wordlists were compiled, and compared with the new JACET List of 8000 Basic Words (new JACET800). A close examination suggested that the top 3000 words of the new JACET8000, JACET3000, could be used as the lexical base when English learners' productive vocabulary is evaluated. Students' English writing and criterial features of Hawkins & Filipovic (2012) were compared to make a list of distinctive properties which represent levels of the Common European Framework of Reference (CEFR), and which range from A2 to C1. Our tentative conclusion is that JACET3000 and the CEFR distinguishing syntactic level markers are two core components on which the productive knowledge and skills of English learners are evaluated.

研究分野：英語学

キーワード：CEFR 多読用英語リーダー 新JACET8000

1. 研究開始当初の背景

英語を母語としない人のための英英辞書の辞書定義語、多読用英語リーダーの使用語彙に関して、コーパス言語学の手法を用いた研究や分析は散見される(上村, 2012)。しかし、英語発信技能の観点から、多読用英語リーダー等の英語リソースの文法や語彙を英語習熟度のスケールとして指標化して活用する研究は、ほとんど着手されていなかった。

2. 研究の目的

英語を話したり書いたりする際に不可欠となる発信語彙の特定と CEFR 関連文献データベース(多読用英語リーダーのテキストデータ、T-series 文献、English Profile 等)を利用した英語発信能力の評価システムの構築を目的とした。

3. 研究の方法

英語発信語彙策定のために、英米大規模コーパス、ESL/EFL 学習者向けの英語辞書定義語リスト、CEFR 関連文献(多読用英語リーダーの英文テキストデータ、T-series 文献)から頻度順語彙リストを作成し、既存の英語の高頻度語リストとの比較検討をおこなった。

近年の CEFR 関連の英語研究、特に English Profile、学生研究協力者による英語の自律学習状況についてのモニタリング、外部の英語試験(TOEIC 試験、Oral Proficiency Interview by Computer (以下、OPIc)の結果、英語ライティングソフトウェア(ETS Criterion)を用いた学生英文ライティングの分析などをもとに、英語習熟度別の英語の文法素性(統語構造や節構造)に着目した英語発信技能評価指標(案)に関する研究をおこなった。

4. 研究成果

(1) 上村

英語の高頻出語や出現頻度の高い統語構造や文法事項をもとに日本人英語学習者の習熟度を計る評価基準の策定を試みた。

研究代表(上村)は、本プロジェクトと並行して、大学英語教育学(Japan Association of College English Teachers, 以下、JACET)の新 JACET8000 策定に参加した。本プロジェクトによる高頻度候補語と新 JACET8000(特に頻度上位 3000 語(以下、JACET3000)との比較検討をおこなったところ、両者には高い相関関係が認められたため、汎用性の観点から JACET3000 を発信語彙リストとすることにした。なお、発信語彙リスト策定の副産物として、英米を中心とする地名、人名に関する語彙リストも作成した。

CEFR 関連文献と Criterion 課題学生英文ライティングデータの分析などをもとに、習熟度別の英語の文法素性(統語構造や節構造)に着目した英語発信技能評価指標(案)を考案した。

今後は、本プロジェクト成果物をもとに、1)高頻度語 JACET3000 を用いた日本人英語学習者の発信英語の調査と分析、2)英語発信技能評価指標(案)を用いた TED 英語(www.ted.com/talks, www.ted.com/watch/tedx-talks)の検証を中核とした研究で活用するとともに、同指標のさらなる精選を予定している。

(2) 雪丸

日本人大学生の自律的な英語学習を促進する手段の一つとして、多読活動の効果について調査し、英語発信技能の育成の可能性を探究した。少人数の学生協力者を対象に英語多読を実施し、質問紙及び聞き取りによる調査ならびに各種テストを実施した。調査の結果、多読テストの成績はやや向上し、多読に対する学生協力者の反応は概ね良好であった。他方で、多様な学生が自律的に多読を続けるための工夫が必要であることが明確になった。また、多読が英語発信技能の向上に良い影響を与える可能性も示唆された。

自律的な英語学習の一手段としての多読による英語発信技能の育成の可能性を探究すべく、少人数の日本人大学生を対象に主に質的なデータを収集した。研究協力者の自律的な多読に対する反応は概ね良好であり、事前・事後テストの成績にも変化が見られたため、英語学習に関して一定の効果があったと考えられる。ただし、自主的に研究に協力している時点で動機付けが高いにもかかわらず、自律的な多読の継続が難しいと感じる者もいたことから、自律的な多読を手助けするための工夫を検討する必要がある。

(3) 唐津

本プロジェクトでは、多読用英語リーダーの電子ファイル化、ETS の Criterion を用いて、長崎県立大学の担当授業「コースゼミナール A」の受講者の英文ライティングの検証をおこなうとともに、同期間中に研究論文を 3 本執筆した。

Karatsu (2016)では、CLIL の視点から批判的思考を兼ね備えた異文化間能力(Critical Intercultural Competence (CIC))を養成する際に映画の利用が有効であることを論考した。CLIL の教授法を取り入れた授業展開がなされたかについて述べ、語学教材用として学習者用に編集されたものではなく、実際の世の中で触れられるオーセンティックな生の教材を使用したこと、学習科目知識、批判的思考力、異文化意識、共同学習、「正解のないディスカッション」を重視したことについても詳述している。そして CIC を高めるために、CLIL 型の授業において映画を使用することの有効性と可能性について考察した。

(4) 山内

英語スピーキング試験 OPIc、英語学習履歴と TOEIC リスニング・リーディングテスト(以

下、TOEIC L&R)との関係を調べ、学生の英語力の伸びについて考察した。

OPic は英語のスピーキング力を測定する試験で、American Council on the Teaching of Foreign Languages (ACTFL、www.actfl.org/) が開発したテストと評価基準を利用して行っている。OPicを利用して日本人学生の英語スピーキング力について検証した。研究協力者数は全部で 14 名と少なかったこと、また、複数回受験者がわずか 5 名であったことから、全学生研究協力者のスピーキング力の伸びの測定はできなかった。ただし、複数回 OPic を受験した学生研究協力者のスピーキング力は、日本の他大学の事例と比較して伸びが大きかった。

学生研究協力者の TOEIC L&R スコアによる CEFR のレベルと OPic テスト結果による CEFR のレベルとは、完全な相関関係にはなかった。リスニング、リーディングに特化した TOEIC L&R とスピーキング試験に特化した OPic とでは、完全一致しないのは当然かも知れない。また、研究協力者の OPic による英語発信能力(スピーキング)評価については、受験者の試験形態や「英語で話すこと」への不慣れが関与した可能性も否定できない。

<引用文献>

Uemura, T. (2012) Some remarks on non-finite clauses 『長崎県立大学研究紀要』 13 号 pp.271-284 .

5 . 主な発表論文等

[雑誌論文](計 10 件)

Karatsu, R. (2016) Fostering critical intercultural competence in CLIL classes through films: A case study at a Japanese university. "ATEM Journal, 21, pp.129-142. 査読有

上村俊彦 (2015) 「新 JACET8000 の頻度上位 3000 語」 『長崎県立大学国際情報学部研究紀要』 第 16 号 pp.153-164. 査読無

Yukimaru, N. (2015) Extracurricular extensive reading: A ten-month study 『北九州市立大学外国語学部紀要』 第 140 号 2 巻 . Pp.100-120. 査読無

上村俊彦 (2014) 「グレイディッド・リーダーの語彙と文法」 『長崎県立大学国際情報学部研究紀要』 第 15 号 pp.171-184. 査読無

Fuyuno, M., Hama, N. Yukimaru, N. and Myall, J. (2014). Effects of English recitation for Japanese EFL learners: towards multi-modal English speaking skills education, *Annual review of language learning and teaching*, 4, 15-28. 査読有

Uemura, T. (2014). Is VOICE a good role model for English users in Japan? Ishikawa, S. ed. (2014). *Learner corpus studies in Asian and the world Vol.2.*

pp.227-236. 査読有

Yukimaru, N. (2014). Introducing extensive reading to university EFL students. 『北九州市立大学外国語学部紀要』 第 139 号 pp.55-78. 査読無

Karatsu, R. (2013). The representation of the sea and the feminine in Takeshi Kitano's Scene at the sea (1991) and Sonatine (1993). *Journal of media & cultural studies*. 27 (5), pp.630-643. 査読有

Uemura, T. (2013). New e-dictionary contents for Wi-Fi-enabled tablet devices. Kwary, D.A. et al. eds. (2013). *Asialex lexicography and dictionaries in the information age*. pp.293-298. 査読有

Pennington, W. & Yukimaru, N. (2013). Effects of extensive reading on attitudes and beliefs of Japanese university students, *LET Kyushu-Okinawa bulletin*, 13, pp.25-39.

[学会発表](計 4 件)

上村俊彦シンポジウム「基本語改訂当別委員会報告：新 JACET8000 の提案：英語発信語彙としての JACET8000 上位 3000 語」 大学英語教育学会 2015 年 8 月 30 日(鹿児島大学：鹿児島)

雪丸尚美「多読における共同学習と自律学習の関係と課題」 大学英語教育学会 九州沖縄支部 2014 年 7 月 5 日(鹿児島大学：鹿児島)

Uemura, T. Is VOICE a good role model for English users in Japan? *Learner Corpus Studies in Asia and the World 2014* 年 5 月 31 日(神戸大学：兵庫)

上村俊彦「グローバル時代のリーディング教材：リーディング・ツールとしての多読用英語テキスト」 大学英語教育学会 九州沖縄支部 2013 年 7 月 6 日(北九州市立大学：福岡)

[図書](計 2 件)

大学英語教育学会基本語改訂特別委員会(編著) 桐原書店 『大学英語教育学会基本語リスト：新 JACET8000』 2016 年 p.23, pp.44-48, pp.82-83.

Karatsu, R. Northwest University Press. "Beyond melodrama of Kachusha-mono: Mizoguchi Kenji 's straits of love and hate (Aien kyo 1937) " in Fitzsimmons, L & Denner, M.A. eds. *Tolstoy on screen*, 2014 pp.59-74.

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

上村 俊彦 (UEMURA, Toshihiko)
長崎県立大学国際情報学部・教授
研究者番号：50176640

(2)研究分担者

雪丸 尚美 (YUKIMARU, Naomi)
北九州市立大学外国語学部英米学科・
准教授
研究者番号： 10593337

唐津 理恵 (KARATSU, Rie)
長崎県立大学国際情報学部・准教授
研究者番号：60458114

山内 ひさ子 (YAMAUCHI, Hisako)
長崎県立大学国際情報学部・教授
研究者番号：70200582
(平成27年度より連携研究者)